

=私たちの活動 4つの柱=
*制度化と指導員の身分保障
*専門性と仕事の確立
*父母と共に学童保育運動の発展
*全国の指導員との団結と連帯

建交労愛知学童保育支部

支部ニュース

メール版

2023. 8. 31.

○夏休み特集5号
全日本建設交運一般労働組合
愛知学童保育支部 発行
名古屋市中川区宮脇町2-99-2

●このニュースは、支部執行委員へメールしています。分会員にも流してください。

2学期を迎える子ども

支部定期大会を、みんなの参加で成功させよう

支部定期大会とは、労働組合の一番大切な会議です。一年間の活動を振り返り、これからの一年どういう活動をしていくかを決める場です。

各分会で、支部的大会に向けて準備を進めていきましょう。

日時：10月9日（月・祝）

9時受付開始 開会9：30

場所：労働会館東館2階ホール

各分会では・・・

まずは全員が今年8月分までの組合費を9月10日までに支部に完納します。

そして、この大会の参加確認を明確にしましょう。

猛暑が続いた夏休み。指導員のみなさんたちにとっては、「フッッ、やっ」と終わる〜というのが、本音ではないでしょうか。人手不足、長時間労働のうえに、この夏休み中に熱中症やプールで子どもが命を落とすという痛ましい事故もあり、気が抜けない夏休みだったと思います。

そして、明日始業式を迎え、2学期が始まりますが、それを心待ちにしている子どもばかりではありません。



8月30日付けの中日新聞に「新学期前 親や子の体談」という記事があり、その一部を紹介します。10代女性「またあの集団、

これからがシンドイ、子どもたち

「行きたくない」に共感を

安上がりの学童を許さない ～中央大会、発言～

8月26～28日、群馬県磯部温泉で第25回建交労中央本部定期大会が開催されました。

全国の各支部、業種部会から約50本の発言があり、市川委員長も発言。

「憲法に基づいて、学童の子どもたちにも平和な社会、生活を保障していきたい。そのためには、安上がりな学童保育施策は許さない決意です。」と力強く発言しました。

また、機関誌コンクールで「支部ニュース」が優秀賞を受賞。みんなで作った機関紙が表彰されました。



あの生活に戻るのかと暗くなつて墮ち(やみおち)」。また、児童精神科医の先生は「18才以下の子どもの自殺者数が9月1日に突出している」「先生や親は『行けたら行こうね』などのあいまいなメッセージではなく、『学校は命かけてまで行くところではない』と明確に伝えるべき」と語っています。

みなさんの学童保育所の子どもたち一人ひとりの様子をつぶさに見ましょう。シンドイ、理由はわからないけど学校行きたくない、だとかつぶやきがあれば、

その生活をしっかりと受け止め共感を示しましょう。

最終的に登校するかどうか決めるのは各家庭になると思いますが、保護者の方には「仕事があるから行ってもらわないと困る」というのも本音。それでも、子どものつぶやきを保護者に伝えていくのも指導員の大切な役割です。

